

スバ・ランカ協会の活動も5年目を迎えました。この4年間のご協力に感謝し、これからも、今までと同様のご理解・ご協力が得られるように励みますので、よろしく願いいたします。

<報告>

1月23日開催の総会において、平成22年度事業報告・平成23年度事業計画・役員変更が承認されました。この16号では、平成23年度事業計画のみを詳しく説明します。

1. 幼稚園における汚水処理つきトイレ7基の建設

モリコロ基金の助成が得られれば、7箇所での建設が可能となります。モリコロ基金事務局から2月8日に手紙が届き、平成23年度公開審査会に出席するようにとのことです。このように書類審査は合格しましたが、2月26日に審査委員の前で説明をし、委員からの質問に答えなければなりません。合格すれば、助成金が得られます。久しぶりの面接試験です。どうなりますか。皆さん、合格をお祈りください。7箇所の選択は、現地コーディネーターのチャミット氏により行われた、トイレが緊急に必要であり、保護者の労力奉仕が得られる幼稚園の調査の結果です。その名前と児童数等は、マハマーヤー（ガリガムワ村；25名）、シュリーボーディ（アラワラ村；16名）、ランタル（ダンデニヤ村；20名）、プブドゥ（ウェーラガラ村；12名）、シギティ（ウェヘラガラ村；14名）、ムトゥリヤンディ（ハッラワ村12名）、プブドゥ（マルマドゥワ村；10名）です。（ ）内は村名と児童数を表します。

2. ガラピタマダ村の大学校（1年生～13年生）における給水施設の再建

「東南アジアに学校を造る会」から頂いた寄付金30万円をもとに再建します。この学校には800名ほどの生徒が通っていますが、ここ5,6年飲み水を家から持参しています。というのも、学校の井戸水が汚染し使えないからです。政府の補助金で作られた井戸水給水システムは設計ミスと施工のまずさで、すぐに汚染が始まり、使えなくなりました。こんな状況で、再度、補修・再建のための補助金を得るのは至難の業です。10数年はかかるとのこと。この状況を知った和歌山県宝珠寺のご住職、西昭嘉和尚さんが決断してくださり、宝珠寺のNGOである「東南アジアに学校を造る会」から寄付金を出してくださいました。

3. ランムトゥ・デイケアセンターにおける給食施設のリニューアル

武庫川女子大学国際健康開発研究所所長の家森幸男教授が代表をされている「NPO 法人世界健康フロンティア研究会」（http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/search/index.php?act=dtl&npo_id=1105&p=&s=1081&v=20）から頂いた寄付金10万円を使わせていただき、コロンボ近郊のランムトゥ地区にあるデイケアセンターの給食施設のリニューアルを行います。スリランカでは、デイケアセンターというのは、老人対象ではなく、児童生徒が対象で、日本で言う保育園に当たります。昨年、同研究所がスリランカでおこなった母子の健康調査に協力したご縁で寄付金を頂きました。今年、家森先生が、この調査の結果をスリランカで報告されます。スリランカ人の食生活について貴重な助言が得られると期待しています。

4. インド・タミル人の学校における鉛筆等文房具の贈呈

内閣府認定 NPO 法人「アースアズマザー」(<http://www.earthasmother.com/>) と岡崎市材木町のベルクララ(<http://belclara.com/>) から頂いた鉛筆や消しゴムなどをバラゴダ市郊外の山地にあるインド・タミル人居住地区の小学校に贈呈します。この活動は昨年も立命館大学のボランティアサークル「自立のための道具の会京都」の協力を得て行いました。立命館の学生さんたちは、今年も、春と夏にスリランカに行き、ボランティア活動をするそうです。できれば、昨年と同様の協力をお願いしたいと思っています。

インド・タミル人は紅茶プランテーションにおける労働力として島にやってきた、あるいは連行された人々です。イギリスの植民地のもとでの出来事です。かれらは、今でもスリランカ人の中で、最も貧しい生活を強いられています。彼らの住居はトタン屋根の長屋で、数家族がひとつ屋根の下で暮らしています。こうした住居を見るたびに、世界に流通するスリランカ紅茶販売による利益はどこに行っているのかと思わざるを得ません。私たちスバ・ランカ協会も紅茶の配布をしていますが、直接の生産者であるインド・タミルの人々に、何らかの形で還元できないものかと考えます。そのひとつの小さな試みとして、鉛筆の贈呈を行いたいと思います。

5. 地方都市(バラゴダ)における日本語教育の振興

サバラガムワ大学近在のバラゴダ市に日本語クラスを開設するために、同大学の卒業生を中心に日本語教師派遣の団体、「親友会」を組織しました。日本語クラスがコロンボなどの大都市に偏在しているのを是正することを目指しています。親友会の働きかけで、1月からバラゴダ市の日本・スリランカ連携学校で日本語クラスが週1回始まりました。

また、バラゴダで日本人日本語教育ボランティアを受け入れるための家を借りる、あるいは建設することを計画しています。これには多くの資金が必要ですので、日本冠婚葬祭互助協会の助成金を申請しようと考えています。2月28日が締め切りです。

さらに、例年通り、国語・漢和・和英・英和辞典をサバラガムワ大学の学生に贈呈します。

6. スバ・ランカ農園の管理維持の円滑化とカシューナッツの増収

農園内に井戸を掘ることで、カシューだけではなく、管理者が食す野菜の栽培が容易になり、飲料水も確保できます。そうなれば、農園管理者の給料も減額でき、農園の管理維持がうまく行きます。この理由から、会員の方々に「井戸掘り募金」を呼びかけています。

7. スリランカの物産の普及

紅茶、カシューナッツ、バナナバッグ、水晶細工、サリーの古着からリメイクしたショッピングバッグ・ポーチ・スカーフ・ヘアバンドなどの販売を仲介したいと考えています。特に、バナナバッグやサリーリメイク品は村の女性の自立を支援することになります。こうしたスリランカのものづくりを促進する「産直の会社」を創設したい方を探しています。

8. 日本・スリランカ文化交流事業の展開

わくわくスリランカ文化講座 3月26日(土) 午後1時半～3時半 名古屋市女性会館 大会議室 演者: 大岩 碩 演題: スリランカの仏教について 会費 100円

シンハラ語講座 4月2日(土)、4月10日(日)、4月17日(日)、4月24日(日)

午後 1 時半～3 時半 名古屋市女性会館大会議室(10 日のみ中会議室) 会費 4 回 1000 円
講師：新海啓一、大岩碩 シンハラ文字の書き順、文字の発音。スリランカ旅行で使われる会話を学びます。ユニークな学習方法の新海と現地体験の豊富な大岩の講義にご期待を！
スリランカ・ツアー 7 月 26 日～8 月 1 日 旅行費用 185,000 円(空港税・航空保険燃油サーチャージ約 30,000 円別途=変更可能性有)

この交流事業の詳細と役員変更や寄付金等については通信 17 号で詳しくお知らせします。

2 月 15 日現在、50 名ほどの方が継続して会費を納めてくださっています。お振込み、ありがとうございました。取り急ぎお礼まで。 以上です。(文責：協会会長 大岩碩)